



サンプル調製のガイドライン

(ワンパス8連解析、ワンパスプレート解析)

テンプレートDNAについて

弊社にて濃度・純度チェックは行いませんので、テンプレートDNAは下記に従い、一定濃度にご調製し、分注してください。簡易精製の有無に関わらず、同一のご調製となります。

※ご調製いただいた8連チューブ、プレートには「テンプレートDNA(もしくはDNA)」とご記入ください。

※ワンパスプレートで簡易精製を希望される場合には、サーマルサイクラーで使用できるPCRプレートにご調製ください。

PCR産物の場合

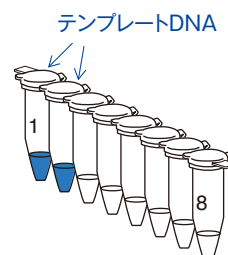
1Wellあたり40-100ngを5ulにご調製

Plasmidの場合

1Wellあたり300-600ngを7ulにご調製
※精製済み

同一のテンプレートDNAを数種類のプライマーで解析を行う場合、プライマーの数の分、複数のWellに分注してください。
また、同一8連チューブ、プレート内でPlasmidとPCR産物を混在させないようにお願いいたします。
ご希望の際には別々にご依頼ください。

例 1つのテンプレートDNAをF、Rのプライマーで解析をする場合、2Wellに分注してください。



プライマーについて

プライマーは簡易精製の有無に関わらず、濃度を3.2μMにご調製いただき、下記に従い分注してください。

※ご調製いただいた8連チューブ、プレートには「プライマー」とご記入ください。

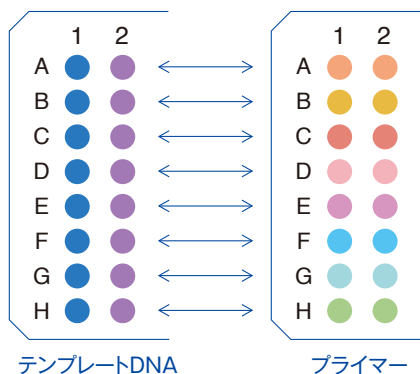
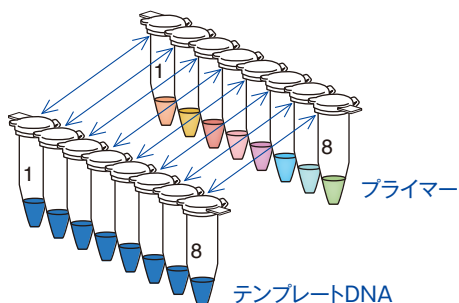
プライマー2種類以内の場合

1.5mlチューブに必要量分まとめてご提供ください。
デットボリュームを含め、1解析あたり2ulとなるようご提供ください。
(例:8つのテンプレートDNAに対して1種類のプライマーを使用して解析する場合、プライマーは16ul以上ご提供ください。)

プライマー3種類以上の場合

テンプレートDNAとは別の8連チューブ、プレートをご用意いただき、テンプレートDNAに対応する位置にプライマーを分注してください。
デットボリュームを含め、1Wellあたり5ulとなるようご提供ください。
※繰り返し同じプライマーを使用する場合でも、3種類以上であればその数の分、テンプレートDNAに対応するWellに分注してください。

例 プライマー8種類の場合。
テンプレートDNAに対応するそれぞれのWellへプライマーを分注してください。



ExoProStarによる簡易精製について

酵素処理によりPCR産物に含まれる未反応のdNTPsを不活性化し、過剰なプライマーなどの一本鎖DNAを特異的に消化いたします。そのため、PCRによって生じたサイズの異なる産物については精製することができません。

シーケンス解析サンプルとしてご提供頂きますテンプレートとなるPCR産物はシングルバンドであることをご確認いただく必要がありますことをご理解願います。

※複数のサイズの異なるバンドが存在する場合、波形の重なりやバックグラウンドが生じる可能性が非常に高くございます。

※精製後のサンプル液をそのままシーケンス反応のテンプレートに使用しますので、サイズの大きいPCR産物では、波形に乱れが生じ、配列後半の信頼性が低くなる場合がございます。